

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税に支えられる健康」

東大和市立第二中学校 三年 石原 琴美

小学五年生の三学期、私は突然学校へ行けなくなってしまった。何をするにも億劫に感じ趣味だったイラスト制作も、今までの普通の生活すら送れなくなった。何かがおかしいと病院に行くと「抑うつ状態」と診断を受けた。抑うつ状態とは気分が落ち込み感情が不安定になったり、意欲が低下したり日常生活に支障をきたす状態のことである。そしてその症状が長く続くと「うつ病」や「不安障害」などの精神障害が引き起こされることもある。

私の精神状態を診て治療が必要だと判断したカウンセラーに精神科の紹介状を書いてもらい、私の治療が始まった。薬を処方してもらい医者やカウンセラーに受けたアドバイスを実行して二か月ほど経つと段々と私の抑うつ状態は寛解してきた。月に二回ほどのペースで診察をして週に一回カウンセリングを受けていれば日常生活も以前のように送れるようになっていた。ある日いつものように診察を受け処方箋を貰うとふと母が、
「税金ってありがたいね。」

と零した。私はその言葉にハッとした。

まず治療を始める前に、心以外での病気が無いかととても精密に調べる所から始める。例をあげると血液検査など体の異常を調べて体調が心に関係していないかを確認する。もちろん検査は不調の原因を探るものなので、検査の結果を確認した後初めてしっかりとした治療が始まる。検査後の通院や薬、カウンセリング費用も全て合わせて計算すると多額の金になってしまう。そんな医療費は医療保険の制度によって実際にかかった金額よりも遥かに安く済んでいるのだ。医療保険は加入した人が分担費を出し合いその中から引き出されるというシステムになっている。しかし実際には全て分担費で医療費を賄うことは出来ない。そこで税金が使われる。医療費の不足分を国の税金から払われることで私たちは負担がかかることなく健康でいられるのだ。その事を知った時に私たちは普段から税金の恩恵を受けていることを知った。

いつか少子高齢化が進み、段々と税金が増えていく。そして私は今でも時々気分が塞ぎ込み薬を飲むことがある。恐らくこの先も悩んだり病気をせずには過ごせない。だからこそ私自身も税金への理解を深め、税金と国民、国への感謝を忘れずにいたい。